

## 教育長室からのお知らせ NO. 57(令和2年4月)



教育長 田中 康寛



昨年度の後半は東日本で台風や大雨の被害があり、年度末の時期にはコロナウイルス関連で私たちの生活が大きく翻弄されました。しかし、市川においては、それらに負けることなく、市川らしく、主体性を重んじた判断の下、地域や学校の実情を踏まえ、適切かつ迅速に臨時休業等の措置を講じてまいりました。今年度、現時点においてもコロナウイルスの影響はありますが、『堅忍不拔（けんじんふたつ）』と『万里一空（ばんりいっくう）』を、今年度の座右の銘とし、市川の教育行政に取り組んでいきたいと思っております。座右の銘の解説を含め、私の思いを述べさせていただきます。子どもにとって、より良い教育を『万里一空』のとおり、目的、目標、やるべきことを見失わず励み、頑張り続けることにあると思っています。加えて、子どもの「学び」と「成長」にとって、必要なこと、大事なこと、大切なことについては、『堅忍不拔』の精神をもって、意志強く、辛いことでも、じっと耐え忍んで、心を動かさず取り組んでまいります。

このような中で、新年度がスタートしました。本来であれば新入生は、保護者や在園生・在校生、来賓、教職員等、多くの人から式において入園入学のお祝いの心を受けるところですが、現在の状況下では、通常とは違う形で実施せざるをえません。入学式において新入生が、参加する在校生の姿をこれからの学びと成長の目標とすることはできませんが、これからの様々な教育活動を通してそれを十分に埋められるよう工夫した取組をまいります。そして、これを指導の機会と捉え、子どもたちの成長の糧としていきたいものです。さらに、新学期は、子どもたちの心に期待と不安が入り混じる時期でもあります。新しい友達、新しい教室、新しいクラスとなり、環境が一変するお子さんもいることでしょう。その不安を安心に変えられるのは、子どもたちの最も近くで接する教職員です。教職員が一人一人の子どもたちと真摯に向き合い、子どもたちとの関係性を丁寧に構築していくよう努めてまいります。

このたびの前例のない社会状況の中で、私は、園や学校をはじめとする教育現場は、子どもたちの元気な声が響いてこそ、その役割を果たしているのだと痛感いたしました。教育委員会は、教育現場と協働し地域の皆様のご支援ご協力をいただきながら子どもたちを全力でサポートしてまいります。